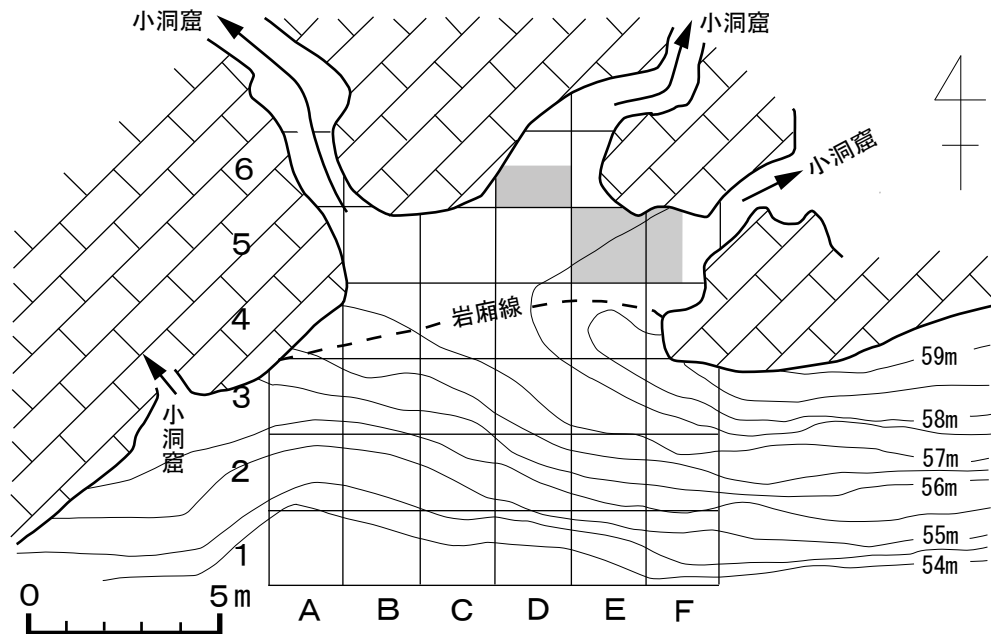




2013 年度 帝釈峽遺跡群発掘調査 Ⅲ期（8月25日～9月1日）

帝釈大風呂洞窟遺跡（第18次）の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は広島県神石郡神石高原町（旧神石郡神石町）永野字大風呂に所在する洞窟遺跡で、帝釈観音堂洞窟遺跡の直上約40mの高所に立地しています。洞窟は南向きに開口しており、洞窟の入り口の幅約11m、奥行約4m、岩廂（いわびさし）の高さ3.0～3.5m、洞窟テラスの平坦面の広さは約40㎡となっています。



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図  
（網掛けは今期の調査範囲）

帝釈大風呂洞窟遺跡からは縄文時代の草創期もしくは早期から後期（約12000～4000年前）の土器や石器、貝製装身具などをはじめ、弥生時代中期の土器や古代の須恵器、中世の銅銭や土製の鍋などの遺物が出土しています。また、炉跡とみられる焼土面や、何らかの目的で穴を掘った跡である土坑などの遺構も見つかっており、本遺跡の利用は縄文時代から古代・中世にわたり断続的に利用されていたことが明らかとなっております。

昨年度の調査では、遺跡東半のD-5区第3層（縄文時代前期～後期）では火処と考えられる焼土面の周辺から食物残滓と考えられるマシジミや石器剥片類がまとまって出土したことから、この場所が当時の生活の中心であったと想定されました。



写真1 調査風景

本年度の調査では、D-6区、E-5区、F-5区第3層および一部第4層以下の調査を行い、遺跡東半でも生活の中心の場と推測されるD-5区に隣接する場所の遺物・遺構の分布状況を検討しました。また、本遺跡では埋葬遺構は未発見ですが、本年度の洞奥寄りの調査区でその有無を検討しました。

調査の結果、人工遺物（土器・石器など）の出土は少量にとどまり、また第3層では新たな遺構の広がり確認できませんでした。しかし、E-5区・F-5区ともに第4層から新たに炉跡と考えられる焼土面が検出され、第4層において洞奥の東側に遺構が広がることが明らかになりました。なお、埋葬については今回検出することはできませんでした。

本年度の調査では東半部洞奥寄りにおいては第3層下位の状況が明らかとなり、また帝釈大風呂洞窟遺跡の第3層の状況もおおよそ把握することが出来ました。今期で本年度の調査は終了ですが、9月からは大学で発掘調査の整理作業を行い、縄文時代後期～前期に相当する第3層における遺跡の利用状況と、本遺跡全体での意義についても考えていく予定です。

（古久保）

### コラム1 『発掘調査を経験して』

今回、考古学研究室に入って初めての発掘を経験し、様々なことを学ぶことが出来ました。

私はⅠ・Ⅲ期に参加し、Ⅰ期では遺跡までの階段作りや遺跡内の清掃など発掘調査を始める準備が主でした。また、今年から新しい宿舎になるということで、旧調査室にある遺物の整理作業も行いました。Ⅰ期の前半は雨が多くなかなか作業が進みませんでした。後半からは調査を始めることができました。レベルを測ったりなど合宿に来る前に道具実習で教えていただいたことを活かすことができ、すごく達成感を得ることが出来ました。

Ⅲ期では、調査区の撮影をする補助をしたり、遺跡内の清掃をしたりする作業が主でした。二年生はまだ考古学を学び始めたばかりなので、先輩方が作図をするのを見ながら来年はこういうことをするのかと勉強させていただきました。

掘る作業が主なⅡ期には参加できませんでしたが、発掘の始めと終わりの基礎となる作業をすることができてよかったです。来年からは今年学んだことを活かして、主体となって動いていきたいと思います。（2年 池西美咲）

### コラム2 『発掘調査への初参加にて』

今回の発掘調査への参加はこれまで体験したことのない出来事であり、その厳しさとともに、それによって得られる充実感を知ることが出来ました。それは、かつて持っていた発掘へのイメージとは全く異なるものでした。

実際の発掘調査では、発掘そのものよりも山道を登ったり、機材や掘り出した土を運んだりすることに体力を使ったのが意外でした。それに加えて、暑さよりもぬかるんだ山道やアブなどの害虫に苦しめられたのも予想と異なることでした。又、遺跡そのものに関しては、想像していたよりも遺跡の面積が小さかったので、その狭い範囲からたくさんの遺物が出土していることに驚きました。しかし、発掘は苦しいことばかりではなく、遺物が発見できたときの嬉しさは何物にも代えがたいものでした。

今年は新しくなった宿舎で恵まれた環境の下、先輩方のご指導を受けて貴重な体験をすることが出来ました。来年は自分たちが後輩を導くことが出来るよう努力したいと思います。（2年 渡邊直宝）

## 人物往来

8月24日 新見市 藤井 勲御夫妻、比和中学校 福永卓司先生

8月28日 広島大学文学研究科 勝部真人研究科長、文学研究科支援室  
藤井隆司主査 今津大紀グループ員

8月29日 天理参考館 太田三喜学芸員

## 参加者名簿（Ⅲ期 8月25日～9月1日）

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	大学院生	市川伯博 藤井翔平 森本直人
広島大学文学部生	(3回生)	浅井美雪 大嶋健介 金森大輝 北之園直哉 古久保茜
	(2回生)	池西美咲 香坂 亮 平本直幹
		向井涼平 渡邊直宝

## 陣中見舞い（50音順）

上田 瞳様：ビール 勝部真人先生・水田 徹文学研究科支援室長：お酒、飲み物、果物 中越利夫先生：ビール 丹羽佑一先生：うどん 藤井 勲御夫妻様：モツうどん 森本洋子様：ビール、飲み物

## 編集後記

2013年度の帝釈峡遺跡群発掘調査も、今期をもっていよいよ終了となりました。さる8月29日に行われた現地説明会では、多くの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。今回の調査の成果については、大学で詳細な分析を行った後、正式な報告を行いますので、ご期待ください。

多くの方々のご支援により今年度の発掘調査を無事実施することが出来ました。今後ともよろしく願い致します。



写真2 現地説明会の様子

（編集 藤井）

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3  
(tel:082-424-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5254 庄原市東城町帝釈未渡1903  
広島大学帝釈峡野外実習施設 (tel:08477-6-0101)

研究室ホームページURL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>